

奄美群島国立公園

琉球諸島の一部である奄美群島にまたがる奄美群島国立公園は 2017 年に設立されました。過去 1000 万年にわたって琉球諸島は日本およびユーラシア大陸と陸続きになったり離れたりを繰り返し、約 200 万年前に最終的に分離しました。このような変遷により、アマミノクロウサギ、ケナガネズミ、オビトカゲモドキなど多数の固有の動植物種が孤立した環境で進化しました。これらの固有種の一部は、絶滅が危惧されているだけでなく、日本にもアジア大陸にもすでに見られない特徴を持つ残存種でもあります。奄美群島国立公園は、これらの固有種を保護し、奄美群島の文化を守る上で重要な役割を果たしています。

奄美群島には、サンゴ礁に囲まれた特徴的な海岸線、山地、亜熱帯性常緑広葉樹林、平地、奇岩といった様々な地形が見られます。奄美群島の各島は沖縄と九州両方の伝統から要素を取り入れた独自の文化を持っているものの、全ての島の文化は自然環境と密接に結びついた生活様式という共通点で繋がっています。

徳之島の自然の世界

徳之島で最も高い二峰は井之川岳（645 メートル）と天城岳（533 メートル）で、より小さい丘もあちらこちらに見られます。島の西側は岩の多い海岸線ですが、東側は砂浜で縁取られています。農業が行われる平地は島の南西部に位置しています。天城岳の急勾配の斜面は、森に吹き付ける強風にも耐えられる頑健なブナ属の常緑樹、シイの木に覆われています。地域の人々は、天城岳は妊婦が寝ている様子に似ていると言い、この山を「寝姿山（sleeping-form-mountain）」とも呼びます。

自然と調和した暮らし

奄美諸島の人々は、今でも自然界と深く繋がっています。例えば、ここに暮らす人々は天城岳の 3 つの滝のひとつであるカーム滝を今も日常的な水源として利用しています。また、伝統料理に使うツワブキや正月飾りのためのマツを採ったり、山の神々に祈ったりするため山に入ります。

見どころ

徳之島の自然の見どころのなかでも特に素晴らしい場所には、海岸の特徴的な奇岩が見られるムシロ瀬や犬の門蓋、石灰岩の海底洞窟ウンブキ、畦プリンスビーチ、歩道がソテツのアーチで覆われている金見崎ソテツトンネルがあります。